

# 平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

|         |                               |      |
|---------|-------------------------------|------|
| 会 派 名   | 上田新風会                         |      |
| 事 業 名   | 先進地視察 「アグリカルチャー・ネットワーク構想について」 |      |
| 事 業 区 分 | ①研究研修                         | ②調 査 |

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市が進めている「農業の6次産業化」、「遊休農地解消」、「ブランド商品の開発」の取り組みの参考にするため、先進事例の瀬戸市の取り組みを視察する。

## 2 実施概要

|                           |      |                              |
|---------------------------|------|------------------------------|
| 実施日時                      | 視察先  | 愛知県 瀬戸市                      |
| 平成29年7月24日<br>13:00~14:30 | 担当部局 | 交流活力部<br>アグリカルチャー推進プロジェクトチーム |

報  
告  
内  
容

### 1 市の概要

瀬戸市は、中部経済圏の中心地である名古屋市の北東約20kmに位置していて、長野県境からも近く、周囲を標高100~300mの小高い山々に囲まれていて、上田市の風景と似ています。気候も温暖で農業も盛んです。市の総面積は11.61k㎡で、そのうち農地は6.03k㎡を有する都市近郊型農業地帯であり、年間平均気温15.4℃、年間平均湿度は75.3%、年間降水量1,875.5mm(平成23年)の温暖な気候条件のもと、農業用水は、水野川、矢田川などから取水していて、水田や畑作に適している地域で、平成28年度の統計では、人口は130,516人で男性64,219人、女性66,297人です。

瀬戸物の街としても名高く、この地域の土は瀬戸物の原料となる良質の陶土やガラスの原料となる珪砂を豊富に含んでいます。

また、北部や東部の山間地帯には、松などの樹林が広がり、これらの恵まれた自然が、良好な土壌条件を背景にやきものの千年余りの歴史を刻むまちの成立の基礎的な要因となっている瀬戸の窯業の発展に大きな支えとなってきたと言われていて、今では、瀬戸物は、やきものの代名詞として日本だけでなく、世界の人々に知られるようになっていきます。

### 2 市の特徴

都市化の進展や産業構造の変化により、第3次産業就業者が増加し、第1次産業から他産業へのシフトがみられ、販売農家人口は、平成12年の796戸から平成27年には593戸へと減少し、本市の総人口133,610人に占める販売農家人口の割合は0.4%になっています。

そのような農業構造の中で、農業従事者の高齢化と担い手の減少などから、遊休化した農用地が増加し、住宅地や店舗等の開発による農用地から宅地等への転換も避けられない情勢にあり、農地周辺部の耕作への影響について懸念されるなど農業を取り巻く環境は一層厳し

くなっている状況です。

### 3 視察事項について

瀬戸市では、平成22年度からアグリカルチャー・ネットワーク協議会を発足させ、農業の担い手を育てて来ました。「瀬戸農業塾」を開設し、それぞれの希望や能力に合わせたメニューを揃え、初心者(家族)向けの「野菜作りコース」と本格的な農業を目指す「担い手コース」の2コースを設けています。

現在までの卒業した塾生は、「野菜作りコース」が83世帯、「担い手コース」が56名を数え、遊休農地の活用と農産物の生産力向上に取り組んでいます。中でも、卒塾生の4名は、最初は未経験ながら、今では販売実績の向上が見られるほどのレベルにまで達していて、後継者の育成も進んでいます。今後は農業生産活動を通じて国土の保全、水源や自然環境の保全などさまざまな役割を担っていかうとしています。最近の農業が、農業者の高齢化、後継者の減少、担い手の不足などの理由で斜陽化し遊休農地化していく中で、遊休農地の活用及び今後の遊休農地化を防止するため、農業が生業として生活できるようなシステム作りを進めるための起爆剤になるよう支援しています。



### 4 次世代への取り組み

- (1) 瀬戸市では、道の駅しなの生産者の会等の協力を得て実行している「教育ファーム事業」で、地元の小学生や公募した親子を対象として、食育をテーマに、遊休農地を活用することで、身近な農地の大切さを感じてもらうことを目的として活動していました。これらの取り組みで地域住民の農業への関心も高まり、農地は貴重な資源であることを実感してもらうよう、努力しています。また、発足当時は46haあった遊休農地も平成24年度には27haに減少し、遊休農地の解消に役立っています。上田市でもJAが取り組んでいますが、まだまだ小規模なので、行政が関与して更に発展させる必要を感じました。



- (2) 農産物のブランド化の取り組み

瀬戸市では養豚業が盛んで、今までは個人経営的な面が強い所がありましたが、ネットワーク化の推進によって、養豚農家同志の結びつきが強まりつつあり、生産効率の向上、生産規模の拡大等々、衛生管理の充実などを通して、「瀬戸豚」としての統一規格や商標登録の取得に向け、ブランド化を進める取り組みも希望が持てる状況が生まれています。

\* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

# 平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

|         |                               |      |
|---------|-------------------------------|------|
| 会 派 名   | 上田新風会                         |      |
| 事 業 名   | 先進地視察 「移動スーパーマーケット道風くん事業について」 |      |
| 事 業 区 分 | ①研究研修                         | ②調 査 |

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市は中山間地域で集落が点在しており、住民の高齢化に伴う移動手段の確保とともに、買物困難者の問題が今後の市政の大きな課題になってくると考えられる。

愛知県春日井市では、地場のスーパーに移動販売車を貸与し、市内の高齢化が進む団地等を回り、買物困難者解消する「移動スーパーマーケット道風くん事業」を展開している。この事業の仕組みや実績を視察し、あわせて実際に移動販売車が稼働している現場を見ることで、上田市の参考としたい。

## 2 実施概要

| 実施日時                     | 視察先   | 愛知県 春日井市  |
|--------------------------|---|-----------|
| 平成29年7月25日<br>9:00~11:30 | 担当部局  | 産業部 経済振興課 |
| 報<br>告<br>内<br>容         | <p>1 市の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面積 92.8km<sup>2</sup></li> <li>・ 人口 305,000人</li> <li>・ 財政力指数 0.97</li> </ul>  |           |
|                          | <p>2 市の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県北部に位置し、名古屋市に隣接。鉄道・道路などの交通条件や自然環境に恵まれていることから多くの区画整理事業が実施され、良好な生活都市として発展。</li> <li>・ 小野道風が生まれたとの言い伝えから、「書のまち春日井」をキャッチフレーズに事業を開催。書道文化の発展に努める。</li> <li>・ 少子高齢化が進行する高蔵寺ニュータウンでは、空家流通促進、JR高蔵寺駅周辺整備、旧小学校施設活用市民活動支援など地域住民と連携したまちづくりを推進。</li> </ul> |           |
|                          | <p>3 視察事項について</p> <p>(1) 移動販売事業の概要と目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市は買い物困難者対策として販売車（軽トラックを改造・450万円/台）を用意し、春日井市観光コン</li> </ul>   |           |



ンベンション協会に事業委託する。

- ・事業主体となった協会は市内に本社があるスーパーマーケットと業務提携し、販売主体となったスーパーが移動販売事業を展開する。
- ・車検代等は市持ちだが人件費や燃料代はスーパー持ちなので、市はほぼ初期投資のみで買い物困難者解消のための施策ができる。
- ・コンベンション協会が事業主体となっているのは、地元業者の新規事業の開発、特産品の販売促進など、産業振興の意味合いがあり、福祉面主体の事業ではあるが、コミュニティビジネスを市が支援する、という側面もある。



### (2) 事業実施までの取り組み

- ・65歳以上の方のみで構成されている高齢者世帯 1,000 件を対象に「不便を感じているか」「どのように移動しているか」「頻度」など買い物環境に関するアンケート調査を行い、市内高齢者の実態を把握した。
- ・さらにニュータウンなど、高齢化率の高い地区を絞り込み、「どういうことに、どの程度、困っており、どんな希望があるのか」をヒアリング調査した。
- ・商圈調査やアンケート結果により、買い物支援が必要な地区やサービスを絞り込み、4地域での移動販売車事業実施を決定した。
- ・住民との意見交換会開催やチラシを配布し、事前見学会の開催などを行ない、周知に努めた。
- ・平成27年4月より事業実施。

### (3) 実施状況と課題

- ・利用人数も1人当たりの販売金額も伸びているが、売れ筋が分かって品揃えが充実したり、次回の分の注文を受けているためである。
  - ・300品目の商品は店舗と同金額で販売しており、スーパーとしての収支はとんとんである。
  - ・週2回、移動販売車が回って来るが、地域の交流の場にもなっており、利用者は買い物を楽しみにしている。
  - ・ビジネススペースに乗せないと業者が撤退してしまうので、市の職員が各戸訪問し、住民の細かいニーズを拾い上げてエリアの拡大・見直し、新規販売箇所設定などを行っている。



#### 4 まとめ(感想)、市政に活かせること

- (1) 福祉目的に偏り過ぎると損益感覚がおざなりになり、市からの補助金をつぎ込んで事業を継続するようになる場合が見られるが、「コミュニティビジネスという新たなビジネスチャンスの開拓も助成している」という考え方は、これからの行政に重要な視点であると感じた。
- (2) 事業開始に先立って市が住民懇談会や見学会を開催して周知に努め、事業開始後も業者に丸投げでなく、市の職員も販売事業者と共に戸別訪問などをしてニーズ調査を続け、住民の要望を事業にフィードバックしている。また、市職員が訪問することで住民の側に安心感があり、よりきめ細かい要望を聞けることで、事業の継続性に大いに役立っていると感じた。
- (3) 牛山町の寺田台児童遊園地での販売を現地視察したが、移動販売車が来る前からお客様が集まり始め、談笑をしている。販売員との掛け合いもあり、特に高齢者の外出機会とコミュニケーション機会の創出に役立っていることが分かった。もう少し態勢を整えれば、独居高齢者の安否確認にも活用できると感じた。



\* 視察先の写真等がある場合は添付のこと



# 平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

|         |                           |      |
|---------|---------------------------|------|
| 会 派 名   | 上田新風会                     |      |
| 事 業 名   | 先進地視察 「スマートウエルネスぎふ事業について」 |      |
| 事 業 区 分 | ①研究研修                     | ②調 査 |

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

上田市が第2次総合計画で掲げたまちづくりの基本理念の目標である「健幸都市」について、具体的な施策が市民に十分な理解と浸透がなされていない点を踏まえて、見える化に向けて同じ理念を掲げて取り組む岐阜市の先進事例を調査、研究する。

## 2 実施概要

|                          |      |           |
|--------------------------|------|-----------|
| 実施日時                     | 視察先  | 岐阜県 岐阜市   |
| 平成29年7月26日<br>9:30~12:00 | 担当部局 | 健康部 健康増進課 |

報  
告  
内  
容

### 1 市の概要

岐阜市は、岐阜県の中南部に位置する中核都市で、人口406,735人、面積203.60k㎡で濃尾平野の北端に当たる。戦国時代には織田信長公などの城下町として栄え、岐阜城を頂く金華山や1300年以上の歴史を有する鶯飼で名高い清流長良川など、奥深い歴史や文化、豊かな自然に恵まれている。一方、名古屋から30km、鉄道で約20分の近距離にあり、市の玄関口である岐阜駅周辺は再整備が進み、複数の再開発ビルが建設されるなど、高度な都市機能を持つ県都である。

### 2 市の特徴

教育・子育て環境の充実や高齢者の活躍の場の創出に取り組むほか、インバウンド受入環境の充実や第4次産業改革を見据えた取り組みを推進している。さらに、中心市街地活性化や防災力強化、新庁舎建設推進などにより、魅力あるまちづくりを進め、安心して暮らせる都市を目指している。

### 3 視察事項について

岐阜市は、「健幸都市」別章スマートウエルネス都市を目指し、少子高齢化がさらに進む中で、市民の健康長寿、健康年齢の引き上げが社会保障費を抑える一方で、活力を生み出すことにつながるという考え方にに基づき、まずは市民が健康であることが市民の幸せ感、満足度の向上に向けて、健康づくりの第一歩は、車社会の中であって市民一人ひとりが歩くこと、ウォーキング



(健幸ウォーク)

の普及・拡大を施策の中に重点化し、市内を2か所大きなエリアに分け、ウォーキング、ジョギングが安心、安全な環境の中で広がりを目指すハード、ソフトの両面にわたり整備し、取り組んでいる状況の説明を受けた。

2つのウエルネス・エリアには、それぞれの中心センターとなる健康ステーションが設定され、室内での健康チェック、体力テスト、相談・指導が行われるなど、取り組みに一貫性があり市民の活用が急速に増えたということであった。



(長良川防災・健康ステーション)



自然に触れ合いながら、歩きたくなる道路整備は、路上に歩行数、消費カロリーが距離単位の表示板に標示されるほか、トイレ、ベンチなど充実した設置、ウォーキングコースの道路には必要に応じたライジングボラートの設置がされていた。これら一連の事業費は、国の総合特区の指定を受け、国の助成を活用し整備を行ったということであった。

上田市においても取り入れ活用する大きな参考になった。

\* 視察先の写真等がある場合は添付のこと